

茨城県立中央病院 手術部運営委員会 術前中止薬一覧

こちらに記載されているものは、手術や侵襲的処置を必要とする場合の基本的な術前中止期間を記載しています。
術前中止の判断は術式、侵襲度、また患者さんの状態に応じて主治医が患者さんとの間で行って下さい。

2023.4改訂

種類		一般名	商品名	茨城県立中央病院手術部推奨中止期間案
抗がん剤、他類似薬		ペバシズマブ	アバスチン(注射)	6週間前から休薬
		アキシチニブ	インライタ	24時間前から休薬、低血圧に注意
		パゾパニブ	ヴオトリエント	7日前から休薬を推奨
		ニンテダニブ	オフエブ	4日前から休薬
		ラムシルマブ	サイラムザ(注射)	28日前から休薬、ポート留置などは7日前から休薬
		スニチニブ	スーテント	7～10日前から休薬を推奨
		レゴラフェニブ	スチパーガ	14日前から休薬を推奨
		テムシロリムス	トーリセル(注射)	14日前から休薬を推奨
		ソラフェニブ	ネクサバール	7日前から休薬を推奨
		レンパチニブ	レンビマ	7日前から休薬、軽度の処置の場合は2日前から休薬を推奨
		イブルチニブ	イムブルビカ	3～7日前から休薬、患者状況に応じて
PDE5阻害薬 他類似薬		タダラフィル	アドシルカ	硝酸剤又は一酸化窒素(NO)供与剤(ニトログリセリン、亜硝酸アミル、硝酸イソソルビド等)との併用により降圧作用が増強し、過度に血圧を下降させることがあるため併用禁忌、そのため使用の可能性のある手術の際は中止
			ザルティア	
			シアリス	
		リオシグアト	アデムパス	
		シルデナフィル	レバチオ	
			バイアグラ	
		バルデナフィル	レビトラ	
肺高血圧治療剤		セレキシパグ	ウプトラビ	血小板凝集抑制作用により、出血傾向を助長するおそれがある
骨粗しょう症治療剤		ラロキシフェン	エビスタ	静脈血栓塞栓症(深部静脈血栓症、肺塞栓症、網膜静脈血栓症を含む)のリスクが上昇するため、長期不動状態(術後回復期、長期安静期等)に入る3日前には本剤の服用を中止し、完全に歩行可能になるまでは投与を再開しないこと。
		パゼドキシフェン	ビビアント	
その他	TNF α 阻害薬	インフリキシマブ	レミケード(注射)	主治医判断
	合成エストロゲン	エストラムスチン	エストラサイト	主治医判断
	放射性医薬品	塩化ラジウム	ゾーフィゴ(注射)	1週間前から休薬を推奨
	IL-23阻害薬	グセルクマブ	トレムフィア(注射)	6週間以上前から休薬を推奨
	免疫抑制薬	シクロスポリン	ネオーラル	主治医判断
			サンディミュン	
	ループ利尿薬	フロセミド	ラシックス	6時間前から休薬を推奨
	免疫抑制薬	メトレキサート	リウマトレックス	主治医判断